

法政大学 通信教育部  
(スクーリング)

「経済学入門B／経済学入門Ⅱ」  
第8回講義ノート

担当教員：ブー・トゥン・カイ (Vu Tuan Khai)

## 第2部 マクロ経済学の基本モデル

本： p.157 ~

1. 消費関数
2. GDPの決定
3. 投資と金利
4. 貨幣市場と金利
5. 財市場・貨幣市場の同時均衡
6. より一般的な貨幣需要関数の分析(発展)

### GDPと金利の決まり方

6章（後半）

本： p.171 ~

## 投資と金利

第3節

# 投資と収益・利益

- 3つの町に出店する投資計画を考える。
  - 表6.2: 売上高や投資収益、収益率を示す。
  - 各場所への投資額: 100ずつ。
- 投資資金は銀行から金利2%で借りる。
- 企業の目的: 利益(収益-利払い)の合計の最大化。

CHART

表 6.2 投資と収益率

p. 172

出店場所	投資額	売 上	投資収益 (=売上-投資)	収益率 (=投資収益/投資額)
A 町	100	106	6	6%
B 町	100	104	4	4%
C 町	100	101	1	1%

# 企業の投資行動と金利

- 総利益を最大化したい企業：利益がプラスになるような場所すべてに出店する。
- 出店する条件：投資収益が利払い費(2)を上回ること、つまり**収益率が金利(2%)を上回ること**。
  - C町は収益率1%が金利を下回るため出店(投資)しない。
  - 出店(投資)が行われるのは**A町とB町**のみ。

出店場所	投資額	売 上	投資収益 (=売上-投資)	収益率 (=投資収益/投資額)
A町	100	106	6	6%
B町	100	104	4	4%
C町	100	101	1	1%

(表6.2 再掲)

# 投資と金利の関係

- **投資の条件: 収益率>金利**

- 金利が2%の時 : A町とB町に投資 (投資額=100+100=200)。
- 金利が5%に上昇 : A町のみに投資 (投資額=100)。

- このように、投資は**金利上昇により減る。**

p.173

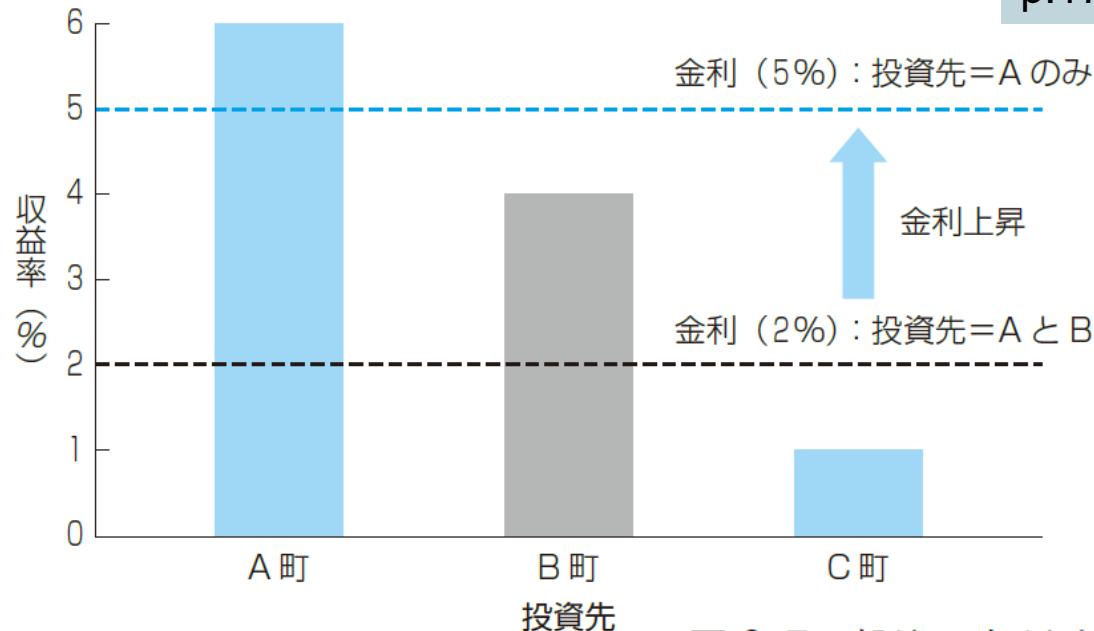


図 6.7 投資の収益率と金利の関係

# 投資関数の導出

- 個々の企業の投資は金利が上がると減少。
- 金利と投資との負の関係は国全体の投資についても成立。
- 国全体の投資 $I$ と金利 $r$ との負の関係を式で示したものを作成する。これを**投資関数**といい、 $I(r)$ とあらわす。
  - 簡単のため、1次関数 $I(r) = b - dr$ を仮定。但し $b, d > 0$ 。
  - 定数部分 $b$ ：独立投資

## POINT 6.7 投資と金利の関係

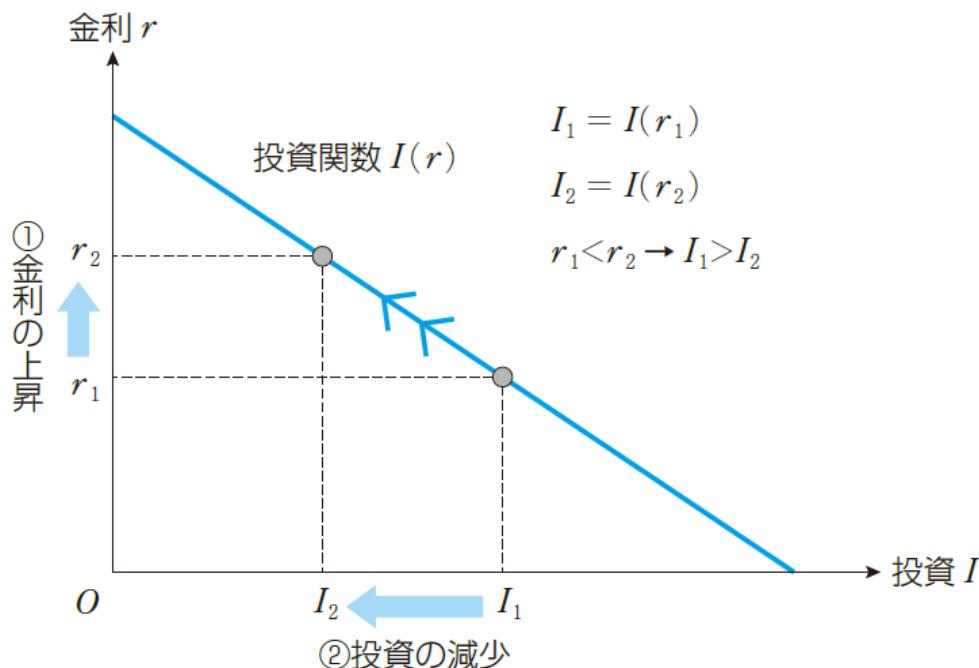
投資は金利が減少すると増加する。

# 投資関数のグラフ

CHART

図 6.8 投資関数

p. 173



投資関数：金利の減少関数

本： p.174 ~

## 貨幣市場と金利

第4節

# 貨幣需要・貨幣供給

---

- 経済主体が貨幣を取引する場を**貨幣市場**という。
- 貨幣供給量( $M$ )：中央銀行が決定すると仮定。
- 貨幣需要( $L$ )の種類
  - 取引需要：財やサービスの決済のための需要。
  - 資産需要：富の貯蓄手段としての貨幣への需要。
- 金利は貨幣保有の**機会費用**(※)。したがって金利が上がると貨幣需要は減少する。
  - (※) の説明：1円があるとし、債券で持つならば金利に等しい利子収入が得られるが、貨幣で持つとこの分の利子は得られない。したがって、金利は貨幣保有の機会費用。

# 貨幣市場の均衡

- 金利 $r$ の減少関数としての貨幣需要関数 :  $L(r)$ 。
  - 貨幣市場において貨幣需要関数 $L(r)$ と貨幣供給量 $M$ が一致する状況を貨幣市場の均衡という。
  - 貨幣市場均衡における金利 $r^*$ を均衡金利という。
- 均衡金利 $r^*$ は以下の貨幣市場均衡式を満たす。

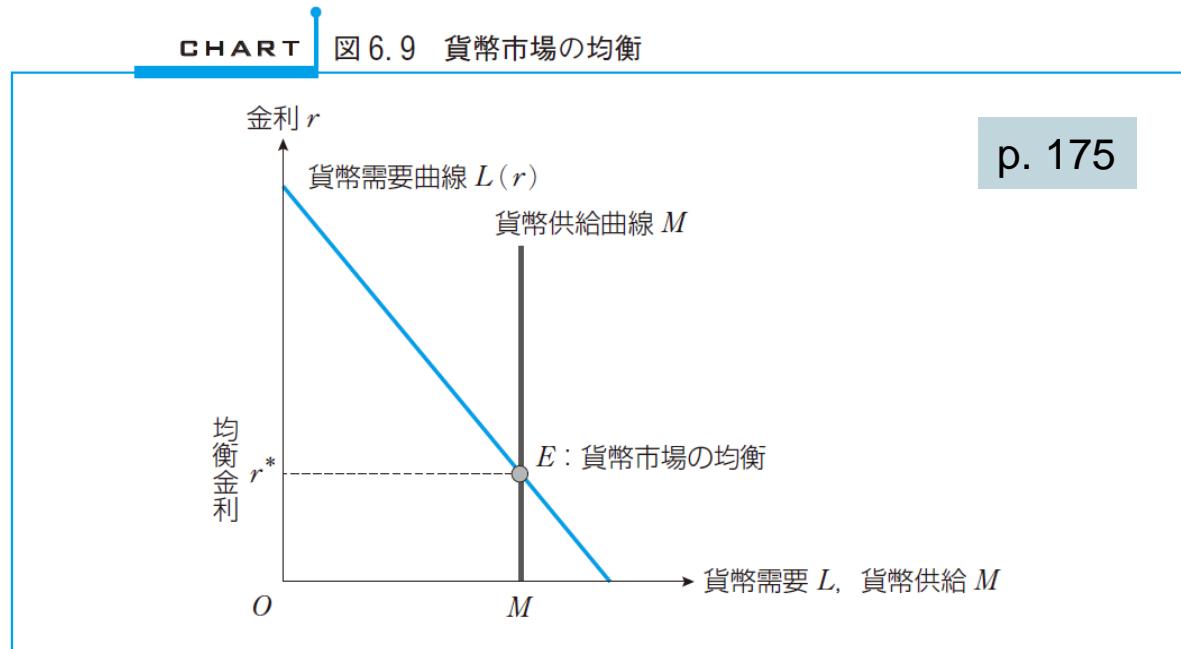
$$M = L(r)$$

## POINT 6.8 貨幣市場での需給均衡

- 貨幣需要関数 $L(r)$  : 金利 $r$ の減少関数
- 貨幣供給量 $M$  : 中央銀行が決定
- 均衡金利 : 方程式 $M = L(r)$ により決定

# 貨幣需要曲線・貨幣供給曲線

- 金利を縦軸、貨幣量を横軸にとった平面の考察。
  - 貨幣需要：右下がりの関係(貨幣需要曲線)
  - 貨幣供給：垂線(貨幣供給曲線)
- 両曲線の交点が均衡を示す。



本： p.176 ~

## 財市場・貨幣市場の同時均衡

第5節

# 均衡GDPと均衡金利の決定

1. 貨幣市場で均衡金利 $r^*$ の決定(図6.9)
2. 均衡金利の下で投資 $I(r^*)$ の決定(図6.10a)
3. 財市場で均衡GDP  $Y^*$ の決定(図6.10b)

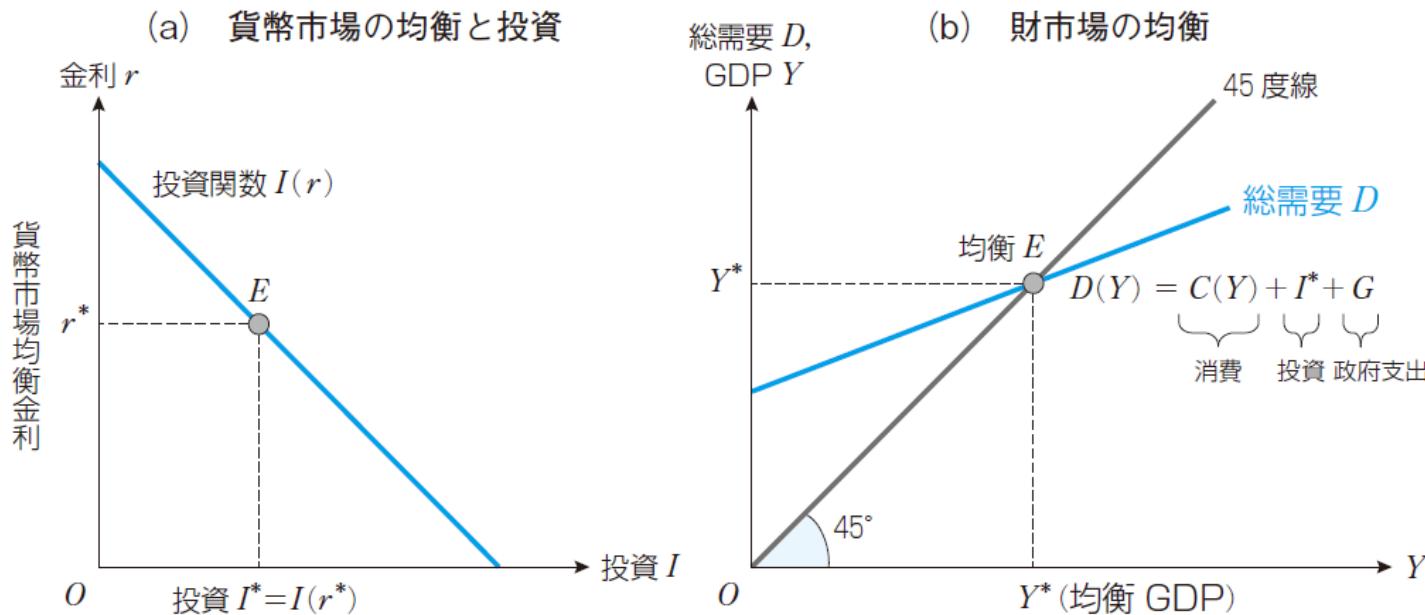


図 6.10 財・貨幣市場の同時均衡

p.177

# 金融政策の効果①：金利への効果

- 金融緩和政策を考える。

1. 貨幣供給量の増加。
2. 貨幣供給曲線が右にシフト。貨幣需要曲線に沿って**均衡金利が低下**。

- 金融引き締め政策の場合金利は上昇。

p. 177

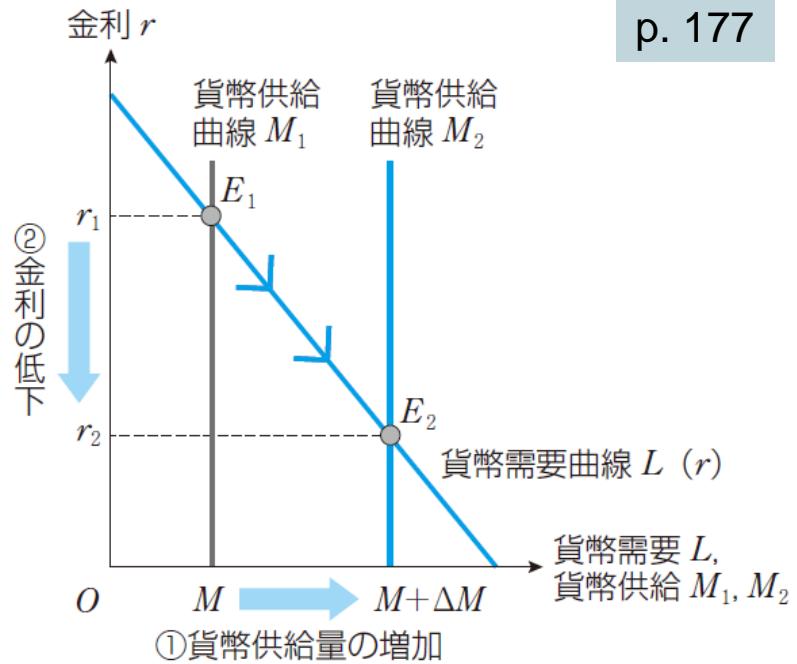


図 6.11 貨幣供給量の増加による金利の低下

# 金融政策の効果①(続)：投資への効果

1. 貨幣供給量増による均衡金利低下(前頁)
2. 金利 $r$ の低下に伴う投資 $I(r)$ の増加
  - 金融引き締めの場合金利は上昇し、投資は減少。

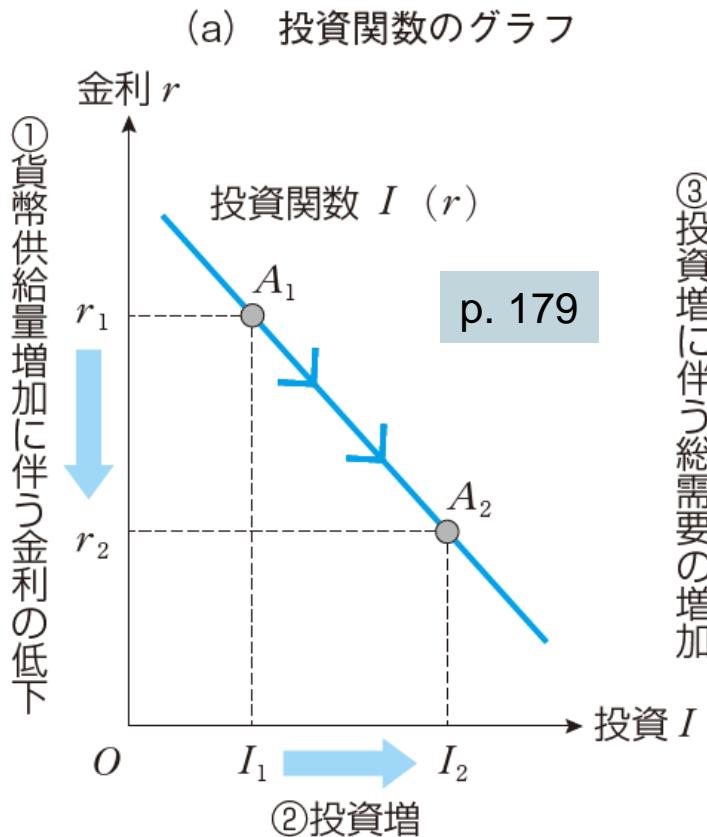


図 6.13 金利低下に伴う GDP の増加

# 金融政策の効果②：GDPへの効果

- 1 • 貨幣供給量増による金利低下(説明済み)
- 2 • 投資増加(説明済み)
- 3 • 投資の増加による総需要( $C+I+G$ )の増加
- 4 • 乗数効果を伴ったGDPの増加

- 金融引き締めの場合  
GDPは減少する。

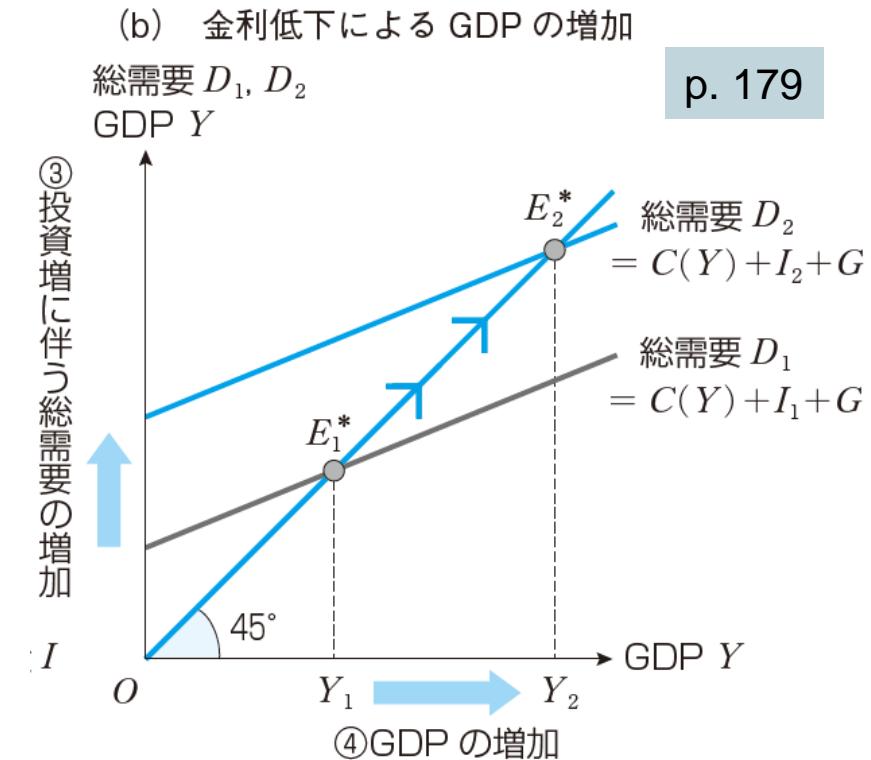


図 6.13 金利低下に伴う GDP の増加

# 金融政策の効果(まとめ)

## ● 拡張的経済政策

- 経済活動を活発化させGDPを増やす経済政策
- 減税や金融緩和政策など

## ● 緊縮的経済政策：拡張的金融政策の反対。

- 増税や金融引き締め政策など

### POINT 6.9 金融政策の効果

【金融緩和政策】 貨幣供給量( $M$ )↑ ⇒ 金利( $r$ )↓  
⇒ 投資( $I$ )↑ ⇒ GDP( $Y$ )↑

【金融引き締め政策】 貨幣供給量( $M$ )↓ ⇒ 金利( $r$ )↑ ⇒ 投資( $I$ )↓ ⇒ GDP( $Y$ )↓

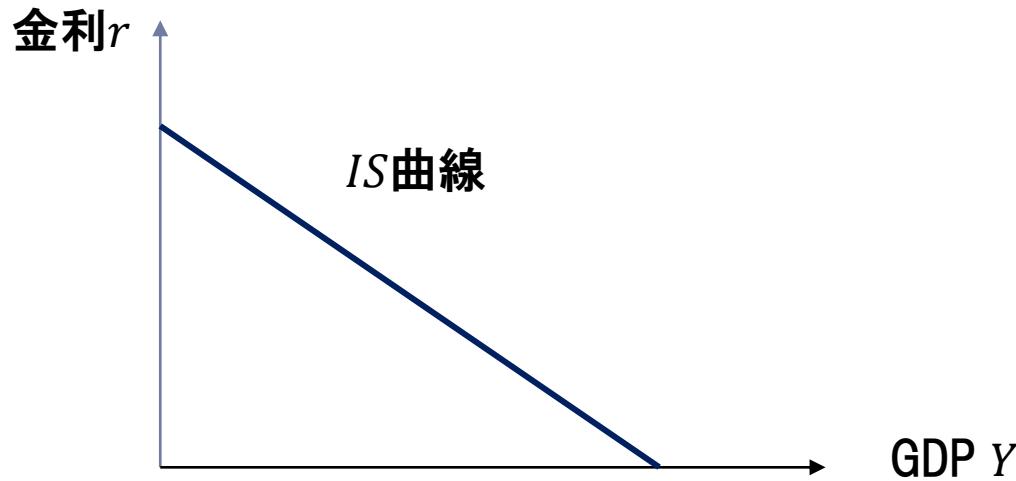
本： p.181 ~

## より一般的な貨幣需要関数の分析

第6節(発展)

## IS曲線

- 金利 $r$ が上がる ⇒ 投資 $I$ 減少 ⇒ 財市場での均衡GDP  $Y$ 減少。
- 金利 $r$ を縦軸、GDP  $Y$ を横軸にとった平面( $Y - r$ 平面)を考える。財市場を均衡させるGDPと金利との負の関係を示した曲線をIS曲線という。



# 貨幣需要関数の一般化

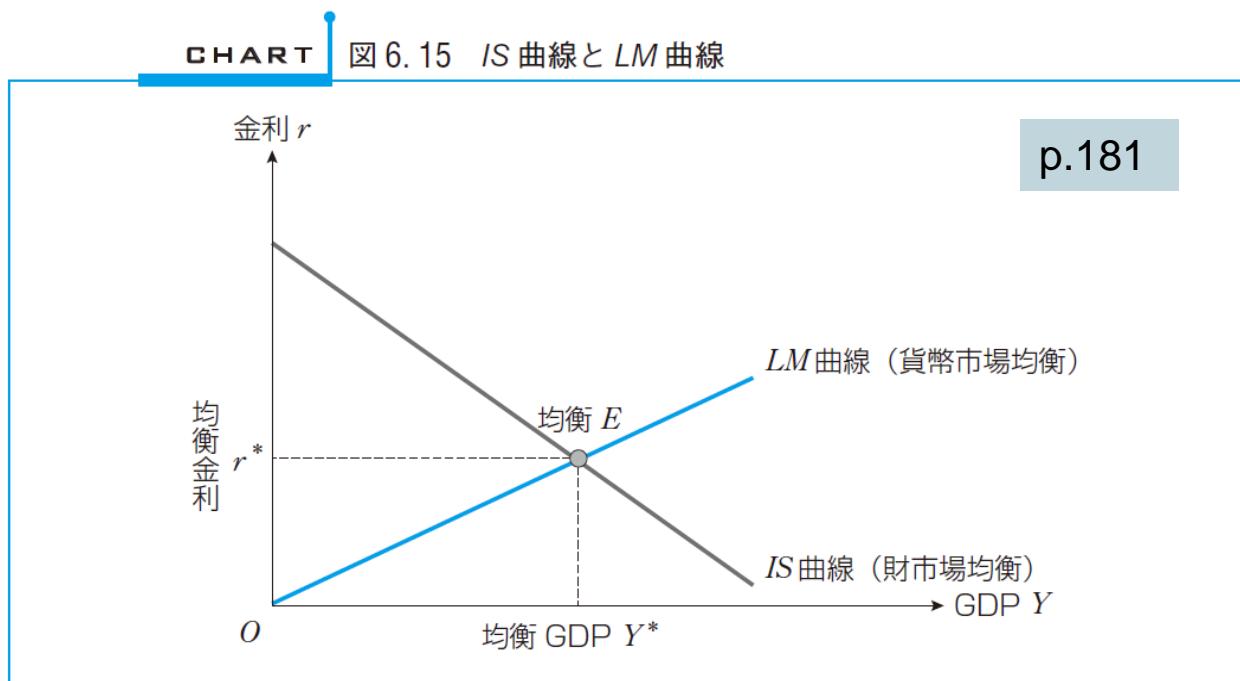
- GDPが増えると消費が増え、決済のための貨幣への需要(取引需要)が増える。
- より厳密には、貨幣需要関数 $L$ は**金利 $r$ の減少関数**かつ**GDP  $Y$ の增加関数**になる。
- 貨幣供給量が一定の時、貨幣市場が均衡するような $Y$ と $r$ の値には正の関係がある。

$$M = L(Y, r)$$

- 説明: いま、金利 $r$ が上がるとする。これにより貨幣需要が減る。貨幣供給が一定の下で、貨幣需給が均衡するためには、貨幣需要を増やす別の要因の働きが必要。それがGDPの増加である。  
→貨幣市場均衡下では、 $r \uparrow$ のとき、 $Y \uparrow$ となる。

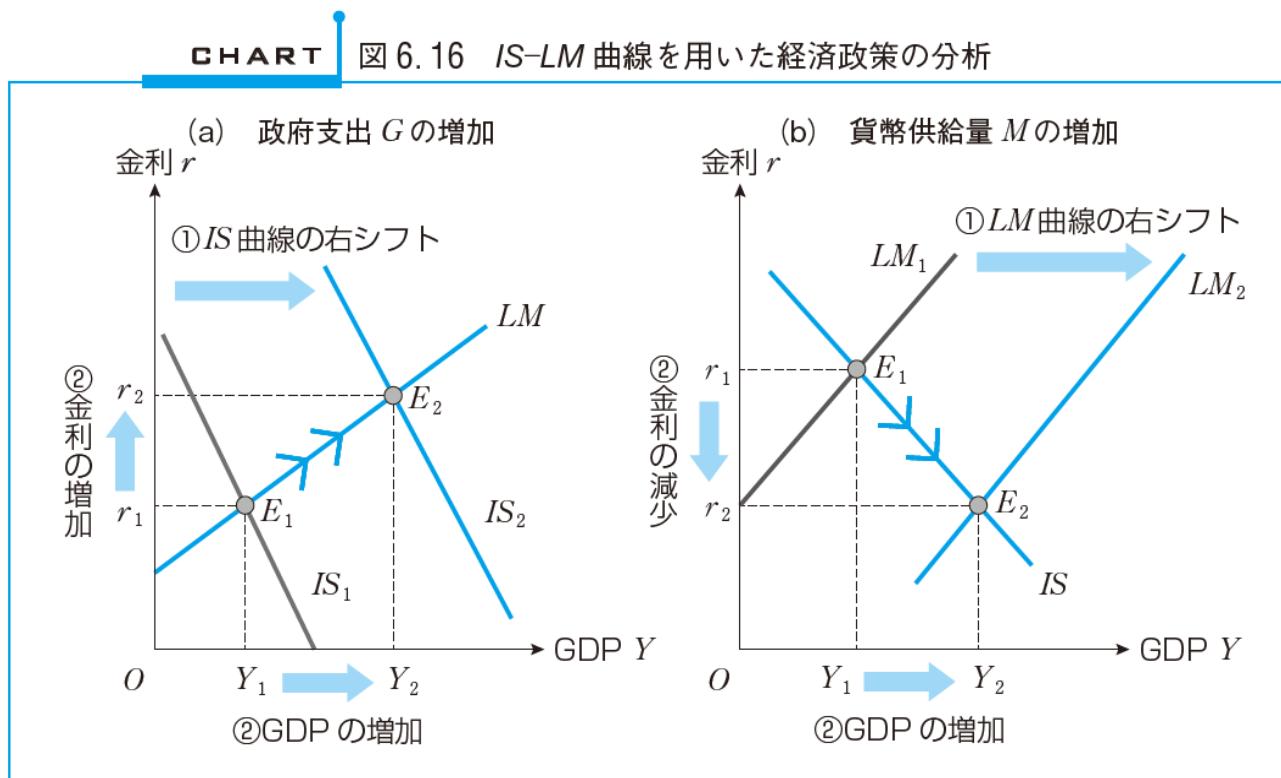
# LM曲線・均衡の導出

- 貨幣市場を均衡させるGDPと金利との関係は、  
 $Y - r$  平面で右上がりの曲線(**LM曲線**)として表せる。
- **IS・LM曲線の交点**：財・貨幣市場の**同時均衡**。



# 経済政策の効果

- 政府支出増：IS曲線が右シフト。 $Y \uparrow$ 、 $r \uparrow$
- 貨幣供給量増： $LM$ 曲線が右シフト。 $Y \uparrow$ 、 $r \downarrow$



# 金融政策の効果(まとめ)

## POINT 6.10 IS – LM分析

- *IS 曲線*：財市場を均衡させるGDPと金利との負の関係を示す曲線
- *LM 曲線*：貨幣市場を均衡させるGDPと金利との正の関係を示す曲線

# 第6章のまとめ

1

- マクロ経済の消費関数とは、消費をGDPの関数で表したものである。

2

- 均衡GDP、均衡金利は財・貨幣市場の均衡により決まる。

3

- 政府支出が1増えたときにGDPが増える量を政府支出乗数という。

4

- 投資関数、そして貨幣需要関数はともに金利の減少関数である。

5

- 貨幣供給量の増加は貨幣市場において金利を下げGDPを増やす。